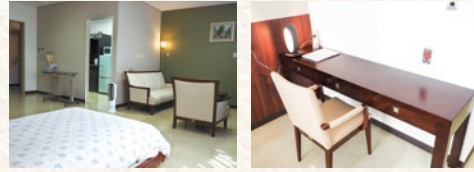


特別室（個室）をリニューアルしました

平成30年5月に特別室（個室）の改修を行いました。入院中により快適に過ごしていただけるよう、内装や設備を一新しました。安全で気持ち安らぐ療養環境を提供しています。



個室A（1室）	
料金	43,200円（1日分）
面積	約40㎡
設備	バス、トイレ、洗面所、冷暖房、ロッカー 応接セット、電話、テレビ、冷蔵庫、 流し台、レンジ、キッチン台

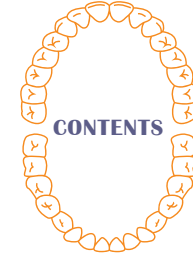
個室B（5室）	
料金	27,000円（1日分）
面積	約20㎡
設備	バス、トイレ、洗面所、冷暖房、ロッカー 応接セット、テレビ、冷蔵庫、流し台、 レンジ、キッチン台

*料金には消費税が含まれます。
*1泊2日の場合は、2日分の料金となります。
*消費税率の改定に伴い、使用料金変更される場合があります。

入院について

本院では、口腔外科・インプラント科を中心として、入院を伴う様々な手術を行っています。病棟は60床の療養環境を用意し、延べ入院患者数は年間約16,000名にのぼり、歯科系医療機関として国内トップクラスの症例数、医療水準と認められています。

また、口腔外科・インプラント科以外の診療科や、医学部附属病院とも連携し、治療にあたっています。歯科医師、看護師だけでなく、歯科衛生士、歯科技工士、薬剤師、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師など経験豊かなスタッフによるチーム医療を行い、高い実績を挙げるとともに、歯学部附属病院に期待される術後の審美性や咀嚼機能の回復にも努めています。



- 病院長のご挨拶
- 歯科心身医療外来
- 4月に着任された2名の新任診療科（部）長ご紹介
 - ・ 口腔外科外来、顎口腔変形疾患外来
 - ・ 薬剤部
- 特別室をリニューアルしました



口腔外科外来・顎口腔変形疾患外来の
依田哲也診療科長



歯科心身医療外来の豊福明診療科長



薬剤部の小林英文部長

ご来院の皆様へ

本院は大学附属病院であることから、理念として「優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供します。」を掲げています。すなわち、良質で安全な歯科医療を提供するだけでなく、教育病院として将来の歯科医療を担う優れた医療人を育成すること、先端的歯科医療のための臨床研究や各種治験を推進することも本院の重要な使命であることをどうかご理解下さい。



代表電話番号 03-3813-6111（歯学部附属病院とお伝えください）
診療日 月～金 初診受付 8:30～10:30
休診日 土、日、祝日と年末年始（12月29日～1月3日）

初診予約デスク：03-5803-4300
予約受付日時：平日 12:00～16:00

編集発行：東京医科歯科大学歯学部附属病院（〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45）
地域歯科医療連携センター広報誌編集委員会 総合診療科講師 磯波 健一／看護部副看護師長 長浦 真由美／歯科衛生保健部 宮本 洋子
業務課 大秋 智美／広報部特任講師 宇山 恵子（撮影）／デザイン SOYA

病院長のご挨拶

東京医科歯科大学歯学部附属病院
病院長 若林 則幸

2018年も折り返し点を過ぎました。4月から新しいメンバーと一緒に最高水準の歯科診療を快適な環境でご提供できるように励んでおります。5月には入院施設の特別室（個室）も完成しました。また、当院の取り組みはテレビ番組、新聞、雑誌などに多く紹介され、メディアを通じて口腔の健康増進に貢献しています。今回は、NHKの健康番組でも紹介された歯科心身医療外来について、診療科長の豊福教授からのお話を紹介させていただきます。



歯科心身医療外来 のご紹介

新聞、雑誌、テレビで多数紹介！
歯科心身医療外来に聞きました



豊福 明 診療科長

患者さんへのメッセージ

口腔内は、痛覚、味覚、触覚、温度覚に敏感で、「気持ちが悪い」「うっとうしい」などの情緒反応を引き起こす中枢神経と深く関わっているため、しっかりと検査をして異常な感覚を引き起こす原因を探ります。お困りの方は一度ご予約の上、ご相談ください。

Q 歯科心身医療外来とは？

A 歯や口の中を治療しても改善しない不快な症状（ヒリヒリ・ピリピリ・ネバネバ・ヌルヌル・咬み合わせの不具合など）に対して、専門の歯科医師が心身医学的な精査と治療を実践しています。

Q 代表的な病気の名前と症状は？

A 口の中が乾く、ねばつく「ドライマウス」、異物感や表現できない気持ちの悪さ、いつも口の中が苦い、塩辛い、酸っぱいなどの症状を呈する「口腔異常感症」、舌がヒリヒリ、ピリピリ、しびれる、やけどをしたような感覚を呈する「舌痛症」、口臭がないのに口臭が気になる「口臭症」、原因が特定できない歯や顔面の痛みを示す「非定型歯痛（顔面痛）」、かみ合わせが気になる「咬合異常感」、インプラント術後の不定愁訴などです。

Q どんな患者さんが多いですか？

A 中高年の男女が圧倒的に多いです。歯科治療を受けている人、治療が終わった人など、歯科治療がきっかけで起こる人も多く見られます。歯科、耳鼻咽喉科、口腔外科、内科、心療内科、精神科などを受診しても解決しないという患者さんも数多くいらっしゃいます。

Q 受診する際の心構えや注意点は？

A 必ず予約をとってください。内科のお病気なども診断と治療に大きく影響しますので、かかりつけの医師からの診療情報提供書（紹介状）をお願いしています。また専門の歯科医師が心身医学的な精査と治療をするために、初診の患者さんには詳しくお話を伺うため、1～2時間程度の時間を要します。ご自分の症状について、しっかり伝えられるようにホームページ上に「病気の質問表」と「受診の経過表」を準備しています。不快な症状がいつ、どんな時、どのくらいの頻度で起きるのかまとめてください。

新任診療科（部）長ご紹介

4月から新たに当院に来られた診療科（部）長をご紹介します。



口腔外科外来・顎口腔変形疾患外来
依田 哲也 診療科長

患者さんへのメッセージ

顎関節症と誤診されやすい「咀嚼筋腱膜過形成症」の治療は保険適用されています。口の中や顎に関して、痛みや不具合がある場合はお気軽にご相談ください。



Q 口腔外科外来・顎口腔変形疾患外来とは？

A 口腔顎顔面領域の各種疾患の診断と、それらの外科的治療を主として行っています。咬合、咀嚼、嚥下、発音、審美面を最大限配慮し、患者さんにとって最善の医療が提供できるよう努力しています。

Q 対象となる具体的な病気や治療は？

A 口腔外科の基本である抜歯から、専門的な手術を必要とする口腔癌、顎変形症、口唇口蓋裂などの先天性疾患、顎関節症、口腔粘膜疾患などを扱う診療科です。

Q 顎関節症と誤診されやすい

「咀嚼筋腱膜過形成症」とは？

A 私たちが世界で初めて疾患として提唱した「咀嚼筋腱膜過形成症」は、聞きなれない病名ではありますが、有病率は100人中1.8人と意外に多い疾患です。咀嚼筋の腱や腱膜が過剰に形成されてしまうことで、開口障害、具体的には「口が開かない」、「うまく噛めない」、「握り寿司が美味しく食べられない」などの症状が現れます。一般的によく知られている「顎関節症」に間違われることが多い疾患でもあります。



薬剤部
小林 英文 部長

患者さんへのメッセージ

院外処方にご協力いただいているため、外来の患者さんが病院でお薬を受け取ることは少なくなりました。しかし、外来患者さん、入院患者さん問わず薬剤部にとって当院の患者さんに違いはありません。診察室、病棟で使用する薬の適切な管理などを通して、すべての患者さんに関わってまいります。今後ともよろしくお願ひします。

Q 薬剤部について

A 多くの薬が開発され治療に使われています。なかには使い方の難しい薬もあります。薬剤部は薬の調剤だけでなく、入院患者さんへの服薬指導や副作用などのチェック、患者さんからの薬に関する相談、そして患者さんの治療へ積極的に関わっています。

Q 特色は？

A 歯科専門の病院なので、一般の病院では使わない歯科特有の口腔用軟膏を中心に、薬剤部で独自で調製し、口内炎などの有効な治療薬として患者さんに処方されています。また、口腔がん患者さんの治療のため抗がん剤調製を行っています。

